



 AgVenture Lab

わたしたちは、
「食」と「農」と「暮らし」
にかかわる社会課題を解決する
スタートアップを支援します。



01 農業



02 食



03 暮らし



04 金融



05 地方創生



06 SDGs/その他



行政との取り組み



- 農林水産省や東京都をはじめ、さまざまな行政と共同プロジェクトを推進しています。



MAFF
農林水産省

2023 - 2024

農業支援サービス事業
インキュベーション
緊急対策事業

2024 - 2025

農業支援サービス
ビジネス確立支援事業

 **復興庁**
Reconstruction Agency

2024

浜通り復興リビング
ラボ
～サイエンス×官民
共創まちづくり～
実証事業

 **東京都**

2023 - 2026

Tokyo STEAM
TiB CATAPULT

 **愛知県**
Aichi Prefectural Government

2021 - 2025

あいち農業
イノベーション
プロジェクト

 **群馬県**
Gunma Prefecture

2024-2025

ぐんまAgri
×
NETSUGEN
共創事業

 **豊橋市**
TOYOHASHI CITY

2022 - 2025

豊橋市アグリテック
実証支援事業
TOYOHASHI
AGRI MEETUP

 北海道  **札幌市**
City of Sapporo

2024-2025

STARTUP HOKKAIDO
JAアクセラレーター
「北海道枠」

SusHi Tech TOKYO 2025

- 5月8日～10日に開催されたSusHi Tech TOKYO 2025において、国連で要職を務める登壇者の招へいや展示内容のコンセプト設計、国内外SUの出展調整など、多岐にわたる支援を実施しました。



SusHi Tech TOKYO 2025のコンテンツの中で、**Food Tech**がAI、Quantumと並んでフォーカステーマとなっており、当該領域に知見を持つ弊社がアドバイザーとして多岐にわたり支援

スペシャル・コンテンツ
Focus on

“旬”の技術領域などに焦点を当て、

- ・著名人や実務家・研究者などによる多様なセッション
- ・優れた技術を持つスタートアップや大企業の出展、ピッチ
- ・先端技術の展示やデモ



などをパッケージで展開

セッション



国際連合食糧農業機関(FAO)のベス・ベクトル事務局次長を招聘し、JIRCASやスタートアップ2社が登壇するセッションをアレンジメント。

スタートアップ展示



Food Techエリアでは、持続可能な食文化を叶えるスタートアップ11社(内、海外スタートアップ2社)がブース出展。

試食提供



水稲の中干し期間延長でメタン発生量を削減したお米(提供：フェイガー)、麦味噌で味付けした未利用魚(提供：ベンナーズ)を用いたサステナブル炊き込みご飯の試食を提供。

SFAクラスター体制図

- ▶▶▶ クラスター構成企業等は、スタートアップとの協働事例創出に取り組むとともに、各社の専門性を活用して6つの切り口からスタートアップとの協働事例創出をサポートします。



スタートアップ



FAO訪問：スタートアップの活動

EF POLYMER



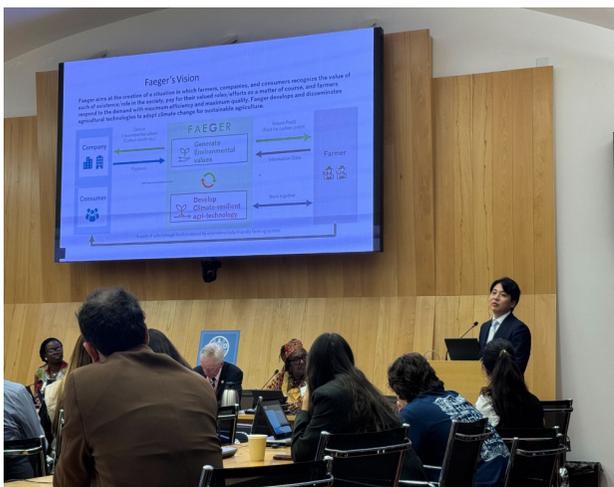
FAEGER

World Food Forum

- ピッチイベントやメインステージでの登壇、展示スペースへの出展などに参加。

FAOとの面談

- PSU（パートナーシップ・国連連携部）、NSL（土地・水産資源管理部）、NFI（水産養殖部）などと面談を行い、自社サービスの紹介や今後の連携の可能性などをディスカッションした。
- ストラウトに関してはNFI（水産養殖部）との面談にて、来年FAO本部で開催される水産委員会のサイドイベントで展示やプレゼンを行うことについて先方から打診があった。



大学との連携

全国各地の大学との連携

大学連携

全国各地の大学との連携を拡大し、オン・オフラインイベントへの登壇、出講などを実施。

慶應SFCでの出講
(2025/5/26,6/2,6/9)



神戸大学 起業スタートアップセミナー
(2025.12.18)



アントレプレナーシップセンター主催起業・スタートアップセミナー

未来の起業家を育てる取り組み

学生向けビジネスプランコンテスト

JUMP Vol.5

JA×University "MIRAI" Pitch-Contest

「未来」の起業家を育てる大学生向けビジネスプランコンテスト

ファイナリスト賞
副賞
5万円

JUMP賞
副賞
JAアクセラ
1次選考免除

優秀賞
副賞
100万円

スポンサー賞
副賞
各スポンサーより
授与

オーディエンス賞
当日ライブ配信にて
視聴者からの
人気投票

JUMP

- 起業している・起業を目指す、学生チームのサポートを目的とし、AgVentureLabが主催する全国規模のピッチコンテスト。
- 「農」「食」「暮らし」「金融」「地方創生」「SDGs」の領域のビジネスプランを対象とする。
- JUMPVol.4（前年度）は国内外より195チームがエントリー

JUMP Vol.5スケジュール

エントリー開始： 2025年11月1日

エントリー締め切り： 2026年1月4日

セミファイナル： 2026年1月下旬

最終コンテスト： 2026年2月28日

※最終ピッチコンテストは当日ライブ配信！視聴者も大幅増加中！

外部向け起業家育成プログラム



- 外部の一般の方向けに、新たに起業家を育成するプログラムを展開しています。



AgVentureLab主催の起業家育成プログラム「GROW&BLOOM」

JAグループのアセットやノウハウを活用し、さらにはメンターによるサポートなどを通じて、ビジネスアイデアの具現化や事業化を目指します。プログラムでは、GROWコースとBLOOMコースの2コースを用意しています。

	GROWコース	BLOOMコース
	マインドセットの構築からビジネスモデルの策定まで一貫したカリキュラムでアイデアを現実のビジネスへ磨き上げます	会社設立と資金調達を目指す方に向けた専門的な支援を提供メンタリングと具体ステップを通じて次のレベルへと押し上げます
対象	起業に興味がある、起業を目指す学生・社会人	GROWコース受講者 数年内の起業を目指す学生・社会人 起業間もない会社
募集人数	採択：24名 (募集定員30名)	採択：11組 (募集定員10組)
受講料	一般5万円(税込)、学生2万円(税込)	無料
受講方法	毎週水曜18:30~20:30 (オンライン) 隔週土曜13:00~18:00 (オフライン・東京大手町のAgVenture Labにて開催) ※受講時間は変更となる可能性があります	

—— JAアクセラレーター

応募数

採択スタートアップ 

-  **第1期**
2019.5~10
-  **第2期**
2020.5~11
-  **第3期**
2021.5~11
-  **第4期**
2022.5~11
-  **第5期**
2022.5~11
-  **第6期**
2024.5~11
-  **第7期**
2025.5~11

192件 >>>



161件 >>>



211件 >>>



179件 >>>



189件 >>>



207件 >>>



189件 >>>



農業におけるイノベーションの取組事例（昨今の重要な社会課題）

事例

自動化で労働力不足に対応するスタートアップ

JAアクセラ
第2期

AGRIST：安価に導入可能なピーマンの自動収穫ロボット

 AGRIST



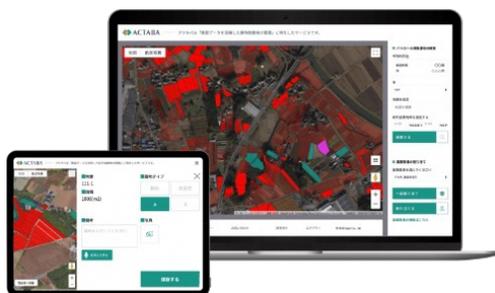
農業におけるイノベーションの取組事例（昨今の重要な社会課題）

事例

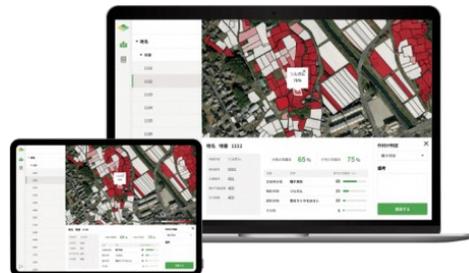
土壌分析で環境負荷低減につながるスタートアップ

サグリ：衛星データによる作付け調査・土壌分析

JAアクセラ
第4期



耕作放棄地がひと目でわかる
農地パトロールアプリ



広範囲の農地を一気に
確認できる作付け調査アプリ



農地の生育・土壌状態を
見える化

農業におけるイノベーションの取組事例（昨今の重要な社会課題）

事例

廃棄物削減につながるスタートアップ

EF Polymer Private Limited : 有機残渣が原料の超吸収ポリマー

JAアクセラ
第3期



農業におけるイノベーションの取組事例（昨今の重要な社会課題）

事例

CO2削減につながるスタートアップ

TOWING：炭素固定や作物収量UPを可能とする高機能ソイル



採択企業

第6期

NoMy^{Japan}

NoMy Japan合同会社

- 食品業界の副産物や排水を食品や飼料に利用するための新たなソリューションを提供
- 風味やクセの少ないタンパク質原料を生産しており、代替肉、麺類、パスタ、焼き菓子、製菓用材料など、幅広い用途に利用できる栄養・機能食品を開発中
- 所在：北海道札幌市中央区南一条西1丁目15番地3-3FLIGHTOFFICE

NoMy Japan の技術的ビジョン



食品・飲料業界の
サイドストリーム

砂糖、デンプン、タンパク質、脂肪分が豊富な副産物(小豆、ジャガイモ、砂糖、小麦、牛乳など)



真菌バイオマス発酵



菌類由来成分
NoMy

プログラム期間中の取組内容

- ✓ 実証パートナーの獲得を通じた副産物の利活用

連携イメージ

- ✓ 食品工場等の紹介
- ✓ 協同研究先となり得る研究機関・大学の紹介

採択企業

第6期

amu株式会社



- 全国の廃漁具を買い取り、それらを再利用してナイロン原料を生成。ナイロン素材ブランド「amuca」としてナイロン素材やアパレル製品等の製造・販売を行う。
- 独自の小型破砕機を利用した分別資源化の技術を農業分野にも応用し、長芋栽培ネットやビニールハウスフィルム等のアップサイクルも目指す。
- 所在：宮城県気仙沼市南町2丁目2-25



プログラム期間中の取組内容

- ✓ 全国の廃漁具回収、回収パートナー探し
- ✓ 農具のアップサイクル

連携イメージ

- ✓ 農具の廃棄方法に困っているJA、生産者の紹介
- ✓ 廃漁具の買取に関心のあるJF、漁業者の紹介
- ✓ 再生ナイロンの活用に関心のある取引先の紹介



【人の目で見えない可視光を計測し食品の鮮度やダメージを可視化する】

- ハイパースペクトルカメラの技術を応用し、人の目で見えない可視光を検知可能なハンディ鮮度測定器「イロドリ」を開発
- 食品の痛みや腐敗の可能性を早期に特定し、フードロス削減を目指す
- 所在：東京都港区



プログラム期間中の取組内容

- ✓ 貯蔵前提の農産物でサンプルデータ計測→最適な出荷時期や成熟時期を可視化するAIモデル構築
- ✓ 産地ブランドの品質評価（産地）のサンプルデータ計測と判別するAIモデルの構築
- ✓ アプローチする農産物やプロセスの分類

【食品残渣を使った自社食品ブランド「KAWAIIINE」】



- 独自の食品加工技術とマーケティングDXで新商品開発を行い、未利用野菜部位から栄養価と美味しさを最大限引き出した産地ブランド商品をプロデュース
- 自社工場を起点とし、開発、製造を一貫して行う
- 所在：茨城県つくば市



<p>UPCYCLING OF ORGANIC JUICE</p>	<p>UPCYCLING OF DRIED SWEET POTATO</p>	<p>UPCYCLING OF JAPANESE SAKE</p>
<p>持ち運ぶサラダ THIS IS SALADシリーズ</p>	<p>1歳から食べられるスナック 砂糖不使用の皮いいね</p>	<p>発酵調味料からうまれた うまみ調味料</p>

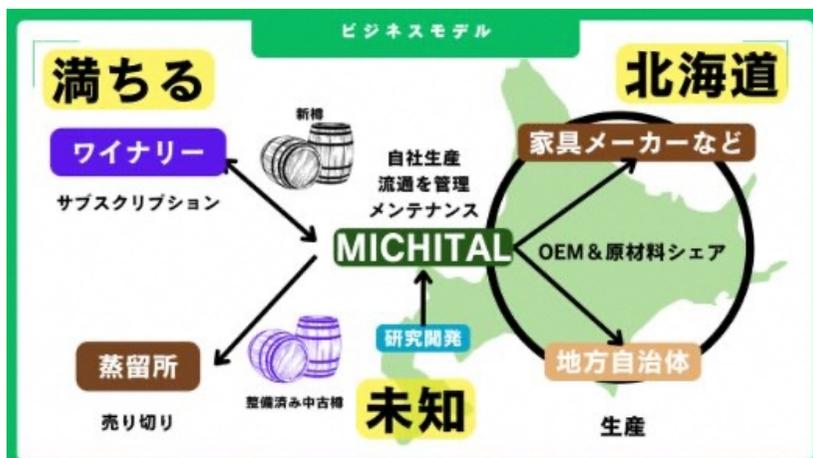
プログラム期間中の取組内容

- ✓ 廃棄コスト削減をしながら新たな価値・販路を創出するネットワーク作り
- ✓ 農産地大国茨城県にてアップサイクルの拠点（ハブ）を作る。
- ✓ 課題素材を利用した新規活用の実証実験



【北海道初の樽メーカー】

- 95%が海外輸入となっている樽を、北海道産のミズナラから生産することで森林循環に貢献する
- 3Dプリンターを用いた高精度な加工により省力化と作業時間の削減を実現
- 所在：北海道札幌市



プログラム期間中の取組内容

- ✓ 国産・北海道産木材を使用した洋酒樽の製造
- ✓ トレーサビリティを確保した木材・樽の納品
- ✓ 蒸留所・ワイナリー・酒蔵の垣根を越えたタルリレーの実現

Various Robotics Inc.

【シカ被害軽減を目指した4脚ロボットによる耕作地巡回】

- 4脚ロボットとGNSSを駆使して耕作エリアを巡回する農産物被害対策ソリューションを提供。シカを発見するとロボットから音を出し撃退。
- 所在：東京都新宿区



プログラム期間中の取組内容

- ✓ 鳥獣撃退ロボットソリューションのMVP開発、製品化に向けたロードマップ作成
- ✓ 鳥獣捕獲ロボットソリューション開発のロードマップ
- ✓ 農業における人手不足、少人化ニーズ収集
- ✓ 新しいロボットソリューションの事業企画
- ✓ パートナー企業探し



【業界唯一の畝間用草刈ロボット「ウネカル」】

- 超小型、低価格な電動バイク型草刈り機で畝間に入り込み草刈りが可能。
- 独自の変形機構により、圃場の周りや平地の草刈りも対応できるだけでなく、1台で多様な作物、生育段階にも対応可能
- 所在：新潟県長岡市



プログラム期間中の取組内容

- ✓ 製品が適合する可能性のある作物に対して、日本各地で弊社ロボットの実証実験
- ✓ 実験結果を踏まえたロボットの改良・販売計画策定

ADDress

【全国で多拠点生活ができる住まいのサブスクサービス】

- 地方の空き家などの遊休物件を賃貸で借り受け、地元業者によるリノベ物件として会員へシェアハウス形式で提供する他拠点生活プラットフォームサービスを運営
- 空き家「負」動産をキャッシュフロー化して各産地の関係人口の拡大につなげる
- 所在：東京都千代田区



プログラム期間中の取組内容

- ✓ 農泊促進や遊休資産活用に関心のありそうなJA・関連団体をリストアップしヒアリング、物件提供等の相談を行う
- ✓ 農泊ポータルさま・農協観光さまとの連携模索
- ✓ ネットワークを活用した食農関連企業への利用提案



AgVenture
Lab



Copyright © 2021 AgVenture Lab All Rights Reserved.